

芸術・思想におけるメランコリーの現在

2025年11月8日(土) 於 立命館大学(KIC)アート・リサーチセンター

9:30 開会

9:45 - 12:30 第一部 現代思想におけるメランコリー

杉山卓史 カントにおける「理性の他者」としてのメランコリー

柿木伸之 憂鬱と叛逆——ベンヤミンのメランコリーの詩学

—休憩—

石田圭子 アルベルト・シュペーアと廃墟の美学

三木順子 メランコリーの時間性:「到来しない原初」と「過ぎ去る未来」のパラドクス

<ラウンド・テーブル>

三木順子(司会)、杉山卓史、石田圭子、柿木伸之

13:30 - 17:30 第二部 現代美術と写真におけるメランコリー

<アンゼルス・キーファーとメランコリー>

基調講演 ハンス・ディッケル Melancholy in the work of Anselm Kiefer

香川 檀 本の憂鬱——〈知〉と〈記憶〉をめぐるメランコリー

仲間裕子 「逆転のアルケオロジー」とメランコリー

—休憩—

竹中悠美 イギリスの庭園写真におけるメランコリーとケア

住田翔子 現代日本の廃墟写真とメランコリー

<ラウンド・テーブル>

竹中悠美(司会)、ハンス・ディッケル、香川檀、仲間裕子、住田翔子

17:30 閉会

共催:立命館大学国際言語文化研究所、立命館大学アート・リサーチセンター、鹿島美術財団、JSPS科研費基盤研究(C)「風景と近代的メランコリーの美学」(課題番号21K00139)代表:仲間裕子

後援:立命館大学産業社会学部

「メランコリー」—陰鬱な気分—は精神の領域であるとともに、文化的・社会的な現象として歴史にその意味を刻んできました。シンポジウムの前半では「メランコリー」を洞察した近代美学を確認し、「メランコリー」の政治的特性に焦点を当てます。後半は現代の表象としてアンゼラム・キーファーの作品を取り上げ、キーファーの研究・アシスタントを務めたハンス・ディッケル氏の基調講演を中心に、現代美術と写真からメランコリーの現在を探求します。

【登壇者紹介(敬省略)】

基調講演者:ハンス・ディッケル(エアランゲン大学名誉教授)

専門は近現代美術。主著にKonzeptionen zeitgenössischer Kunst. Zum Wandel des Kunstbegriffs seit 1900. Berlin, Boston: de Gruyter 2024. Natur in der zeitgenössischen Kunst. Konstellationen jenseits von Landschaft und Materialästhetik. München: Verlag Silke Schreiber 2016. Künstlerbücher mit Photographie seit 1960. Hamburg: Maximilian-Gesellschaft 2008. Kunst als zweite Natur. Studien zum Naturverständnis in der modernen Kunst. Berlin: Reimer Verlag 2006 など多数。

杉山卓史(京都大学大学院文学研究科 准教授)

専門はドイツ啓蒙主義美学。主著・主論文に『「われ感ず、ゆえにわれ在り」の美学—ドイツ啓蒙主義における「感情」と「感覚」の系譜—』思文閣出版、近刊。「ヘルダーの『言語起源論』からカントの人間学講義へ」『日本カント研究』第24号、2023年。

柿木伸之(西南学院大学国際文化学部 教授)

専門は20世紀ドイツ語圏の美学。主著に、『断絶からの歴史——ベンヤミンの歴史哲学』月曜社、2021年。『ヴァルター・ベンヤミン——闇を歩く批評』岩波新書、2019年など。

石田圭子(神戸大学大学院国際文化学研究科 教授)

専門は美学・芸術論。主著に『ナチズムの芸術と美学を考える——偶像破壊(イコノクラスム)を超えて——』(三元社、2023年)、『美学から政治へ——モダニズムの詩人とファシズム——』(慶應大学出版会、2013年)など。

三木順子(神戸女学院大学文学部 教授)

専門は近現代の形象論、美学・芸術学。単著に『形象という経験』(勁草書房、2000年)、共編著に『芸術展示の現象学』(晃洋書房、2007年)、『キュラトリアル・ターン』(昭和堂、2020年)、『芸術の価値創造』(昭和堂、2021年)など。

香川 檀(武蔵大学名誉教授、同大学総合研究機構研究員)

専門はドイツを中心とした近現代美術。著書に『想起のかたち——記憶アートの歴史意識』(水声社、2012年)、共編著に『甦るヴァニタス——くはかなさと向き合う現代美術』(岩波書店、2025年12月予定)など。

仲間裕子(立命館大学名誉教授、同大学衣笠総合研究機構プロジェクト研究員)

専門は近現代美術史。単著に『C.D.フリードリヒ《画家のアトリエからの眺め》—視覚と思考の近代』(三元社、2007年)、『フーゴ・フォン・チューディのモダニズム』(水声社、2022年)。共編著に『風景の人間学——自然、都市、そして記憶の表象』(三元社、2020年)など。

竹中悠美(立命館大学大学院先端総合学術研究科 教授)

専門は近現代の美学・芸術学。共編著に『風景の人間学——自然、都市、そして記憶の表象』(三元社、2020年)、主論文に“Shadows of the Atomic Bombings in The Family of Man” in M. Bohr ed., *Capture Japan*, Bloomsbury, 2022など。

住田翔子(立命館大学産業社会学部 准教授)

専門は視覚文化論。主論文に「アート・観光・メディア—廃墟はいかに見られたか」(『はじめてのメディア研究[第2版]』世界思想社、2021年)、「都市へのノスタルジア——一九八〇年代以降の日本における廃墟写真をめぐって」(『風景の人間学』三元社、2020年)。

◇オンライン参加の方は下のURLより事前登録をしてください。開催前日に、ご登録いただいたメールアドレスにZOOMウェビナーのURLをご案内します。

URL : <https://forms.gle/mzhv6zCcqsZU3oqp9>

お問い合わせ先 : 立命館大学国際言語文化研究所 genbun@st.ritsumei.ac.jp

